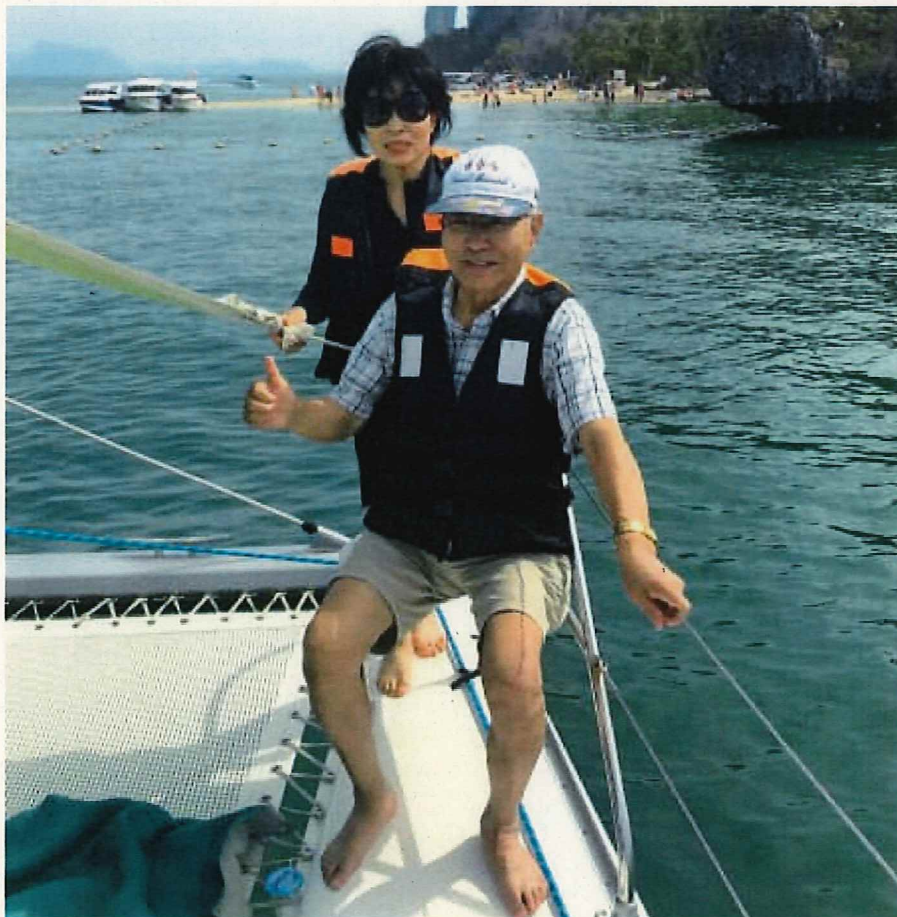


セカンドステージ 快適！ 長期滞在 冬の3カ月、南国タイに/クーラー不要、北海道で涼しい夏

2019/8/1付 | 日本経済新聞 夕刊

北海道の夏は涼しいが短く、冬は厳しい寒さに見舞われる。そんな中、冬には暖を探しに道内から海外へ渡り長期滞在を満喫、夏には涼を求めて道外から滞在を訪れるシニアが増えている。気候の変化に対応し、北海道を行き交うシニアの快適な長期滞在の秘訣は。



タイの島々の観光を楽しむ工藤さん夫妻

「年金生活者には優しくて快適。物価も安く生活の不便、不安は感じない」。北海道登別市の工藤俊一さん（79）は12月中旬から3カ月間、夫婦でタイ・チェンマイで暮らし始めて12年になった。

チェンマイはタイ北部にある古都、日本で言えば京都。同じく長期滞在で暮らす日本人に人気の都市だ。本格的に雪が降る北海道の12月に、気温約20度の温暖で快適な環境で仲間とゴルフ三昧。妻のキヨ子さん（77）はショッピングやジムで汗を流したり、夫婦で寺院巡りやビーチリゾートの島々を観光したりする。

住まいはコンドミニアムで家賃3万3000円。渡航費、食費、ゴルフ代、その他の雑費など生活費は夫婦で月平均20万円で「首都バンコクに比べて物価が安いのが魅力」。観光ビザが切れ気温35度を超えると暑さから逃れるように3月、北海道へ帰る。毎年同じ部屋で家電、食器類、衣類の一部は預かってもらう。

技術家庭の教師だった俊一さんは中学校校長などを務め2003年に退職、「リタイア後はゆっくり海外で暮らしたい」と夢見てきた。英語を含め語学が特別堪能というわけではなく、「タイ語は今もろくに話せない」と笑うが、現地の日本人、通訳らがおりにコミュニケーションで支障は感じない。18年2月、現地で突然盲腸を患い病院へ搬送されたが、病院の通訳を介するなど手術は成功、その後も順調に回復した。

「終活など後の心配をしても仕方ない。人生は楽しまないと」と前向きな俊一さん。体力がもつ限り南国ライフを続けるつもりだ。

不慣れな異国の生活は不安がつきもの。工藤さんが加入するNPO法人「南国暮らしの会」は、海外で長期滞在を目指すシニアの情報交換を目的とした全国組織だ。工藤さんは情報収集し、治安が比較的良いというチェンマイに決めた。「厳しい冬を避け海外へ」と目指す道内の会員は最近10年で2倍以上の約100人に増えた。目指す地域は東南アジア、オセアニア、北米など様々だ。

一方、夏の北海道へ避暑目的に本州から長期滞在を目指すシニアも多い。夏の平均最高気温21度という釧路市で7月から約3カ月間滞在するのは神奈川県藤沢市の山崎信夫さん（71）。妻の規子さん（69）とフェリーを利用し、自家用車で道内にやって来るようになって今年8年目。「クーラーも要らず快適。連日30度以上という関東の夏を避けることができ、やめられない」と涼しい顔で語る。



遊びにきた孫と釧路湿原を観光する山崎さん(左)

関東より格段に安いというゴルフや釣り、読書三昧の夫、アイヌ民族伝統の刺しゅうを学びサークル活動に精を出す妻。「会社員のリタイア後にこんな生活が待つて

いたとは」(信夫さん)、「地元市民が温かく受け入れてくれる」(規子さん)。
2LDKで家賃12万円の月決め賃貸マンションに暮らし、充実の毎日に笑顔が絶えない。

釧路市は18年度、3泊4日以上訪れた「ちょっと暮らし」が1353人と道内トップ。うち60代が54%、70代が31%、80代も9%を占める。市は涼しさをアピールし、お試し移住につなげようと支援策を充実させている。不動産など民間52社とつくる「くしろ長期滞在ビジネス研究会」で賃貸物件を紹介。「ステイメンバーズカード」を交付し、図書館や美術館など市有施設を市民同様に割引利用できる特典を用意している。

(大槻亨)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

海外、まず健康第一で

2019/8/1付 | 日本経済新聞 夕刊

多くの人が憧れる海外の長期滞在。最近の傾向と注意点について「南国暮らしの会」北海道支部長の桂裕章さん（72、写真）に聞いた。

「日本の冬に、タイ・チェンマイ、季節が逆の南半球、オーストラリアやニュージーランド。夏の避暑地としてはカナダが人気だ。ニュージーランドなどの食事付きホームステイは、為替レートによるが月約6万円前後とお得。最初は夫婦一緒に、回を重ねると『1人でも安心ね。行ってらっしゃい』と夫か妻が単独で行動するケースも多い」



「注意点としては、まず健康。気候が激変する地域へ向かう場合、熱中症など体調を崩しやすい。情報収集も重要。食生活などは経験者の話や下見によるリサーチが大切で、治安や物価面では地方都市が薦めだ。定年前の50代から知識を得ようと準備する人もいる。現地で何をするか滞在の目的を定める計画性も重要だ」

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.